

ゴール 文章の構成をとらえて、大切なことを読み取ろう。

**A** セミは、よう虫のあいだ何年も暗い土の中でくらす。成虫となって、ようやく外に出たと思ったら、ほんの一週間くらいで死んでしまう。そのような生き方はかわいそうだと思っていた。でも、あるときから、ほんとうにそうだろうか、と考えるようになった。

**B** 一年じゅうほとんど雨のふらないさばくに、トビネズミがすんでいる。一日に手に入れられる水分のりようが少ないため、体から外に出す水のりようを少なくしたり、あせをかいいたりしないような体のつくりになっている。

**C** また、体から水分がじょうはつしないように、昼間は、すの中にもぐりこんで生活している。すは、深さが一メートルか、それいじょうになっていて、地面よりも温度が低くなっている。また深い場所の土やすなにのこっているしめり気のおかげで体がかわきにくくなる。そのすの中で、トビネズミは、食べ物を食べたり、ねむったりするのだ。

**D** さいしよは、さばくですむのは大変だと思った。けれど、さばくを生きにくい場所だと思うのは人間のかつで、もしかしたら、トビネズミたちにとっては、さばくこそがいちばんくらしやすい場所なのかもしれない。

**E** 北きよくに近い寒い地域にすむハイアーテックモスというガのよう虫は、一年のうち少しだけあたたかくなる六月だけ活動する。太陽がのぼっている間は、ほとんどの時間をひなたぼっこに使って、体をあたたため、植物を食べて生活をしている。よう虫たちは、太陽のねつにたよりきっているのだ。太陽が一番高く上がる六月以外は、土の中にもぐって冬みんしてしまふ。地面の下にもいろいろな生きものがくらす世界がある。ふだん人間には見えないだけなのだ。

**F** 土の中はくらくて、動きまわることもできない。人間は、とてもそんなところでくらしにくい。でも、セミのよう虫にとっては、どうなんだろう。木の根のしるをたっぷりすえて、夏はずしく冬あたたかく、おそってくる敵もほとんどいない。土の中は、もしかしたらものすごくかいてきな場所なんじゃないだろうか。セミは、一生のほとんどを、そんなかいてきな場所ですごしているしあわせ者かもしれない。

参考文献より作成

ふしぎ新聞社 「ふしぎふしぎ200」  
北村雄一『極限生物まかふしぎ図鑑』

○ 次の文章を読んで、あとの問いに答えましょう。

一 文章のだん落の組み立てを整理します。文章全体を三つに分けると、どのように分けられますか。わくの中に**A**から**F**のだん落の記号を書きましょう。

はじめ		
中		
終わり		

序論・本論・結論とも言うね。だん落どうしのつながりを考えて分けるといいね。



二 筆者が一番言いたいことが書いてあるだん落は、どのだん落でしょうか。ふさわしいだん落をえらびましょう。

説明的文章で、筆者が一番言いたいことを要旨といいますが、文章のまとめはどのだん落かな。



三 筆者が一番言いたかったことを短くまとめてみましょう。文章の言葉を使って書きましょう。

だん落の中心になっている文を考えてみよう。筆者の考えを表す言葉を見つけよう。



ふりかえり

- 文章の構成を考えて、文章全体を三つに分けることができた。( )
- 文章全体から、筆者の一番言いたいこと(要旨)を読み取ることができた。( )

ゴール 文章の構成をとらえて、大切なことを読み取ろう。

**A** セミは、よう虫のあいだは何年も暗い土の中でくらす。成虫となって、ようやく外に出たと思ったら、ほんの一週間くらいで死んでしまう。そのような生き方はかわいそうだと思っていた。でも、あるときから、ほんとうにそうだろうか、と考えるようになった。

**B** 一年じゅうほとんど雨のふらないさばくに、トビネズミがすんでいる。一日に手に入れられる水分のりょうが少ないため、体から外に出す水のりょうを少なくしたり、あせをかいいたりしないような体のつくりになっている。

**C** また、体から水分がじょうはつしないように、昼間は、すの中にもぐりこんで生活している。すは、深さが一メートルか、それいじょうになっていて、地面よりも温度が低くなっている。また深い場所の土やすなにのこっているしめり気のおかげで体がかわきにくくなる。そのすの中で、トビネズミは、食べ物を食べたり、ねむったりするのだ。

**D** さいしょは、さばくですむのは大変だと思った。けれど、さばくを生きにくい場所だと思うのは人間のかつてで、もしかしたら、トビネズミたちにとっては、さばくこそがいちばんくらしやすい場所なのかもしれない。

**E** 北きよくに近い寒い地域にすむハイアーテックモスというガのよう虫は、一年のうち少しだけあたたくくなる六月だけ活動する。太陽がのぼっている間は、ほとんどの時間をひなたぼっこに使って、体をあたため、植物を食べて生活をしている。よう虫たちは、太陽のねつにたよりきっているのだ。太陽が一番高く上がる六月以外は、土の中にもぐって冬みんしてしまふ。地面の下にもいろいろな生きものがくらす世界がある。ふだん人間には見えないだけなのだ。

**F** 土の中はくらくて、動きまわることもできない。人間は、とてもそんなところでくらししていない。でも、セミのよう虫にとっては、どうなんだろう。木の根のしるをたっぷりすえて、夏はずしく冬あたたかく、おそってくる敵もほとんどいない。土の中は、もしかしたらものすごくかいてきな場所なんじゃないだろうか。セミは、一生のほとんどを、そんなかいてきな場所ですごしているしあわせな者かもしれない。

参考文献より作成

ふしぎ新聞社 「ふしぎふしぎ2000」  
北村雄一『極限生物まかふしぎ図鑑』

○ 次の文章を読んで、あとの問いに答えましょう。

一 文章の段落の組み立てを整理します。文章全体を三つに分けると、どのように分けられますか。わくの中に**A**から**F**の段落の記号を書きましょう。

はじめ	A
中	B C D E
終わり	F

序論・本論・結論とも言うね。段落どうしのつながりを考えて分けるといいね。

二 筆者が一番言いたいことが書いてある段落は、どの段落でしょうか。ふさわしい段落をえらびましょう。

説明的文章で、筆者が一番言いたいことを要旨といえます。文章のまとめはどの段落かな。

三 筆者が一番言いたかったことを短くまとめてみましょう。文章の言葉を使って書きましょう。

(例) 外に出たら一週間くらいで死んでしまうセミは、かわいそうではなく、一生のほとんどを、土の中とかいてきな場所ですごすしあわせ者かもしれない。

段落の中心になっている文を考えてみよう。筆者の考えを表す言葉を見つけよう。

ふりかえり

文章の構成を考えて、文章全体を三つに分けることができました。( ) ( )  
文章全体から、筆者の一番言いたいこと(要旨)を読み取ることができました。( ) ( )